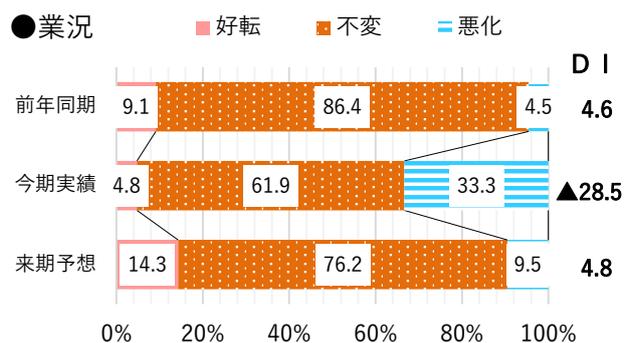


建設業

業況、売上、採算

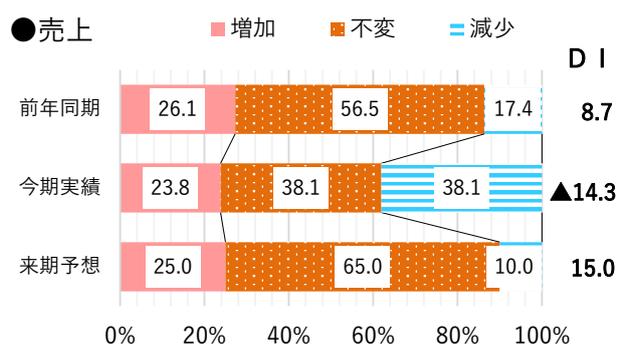
今期（2025.1～3）の業況判断DIは▲28.5で、前年同期（2024.1～3）と比べ33.1ポイントと大幅に低下しました。

来期（2025.4～6）の業況DIは33.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じると予想しています。



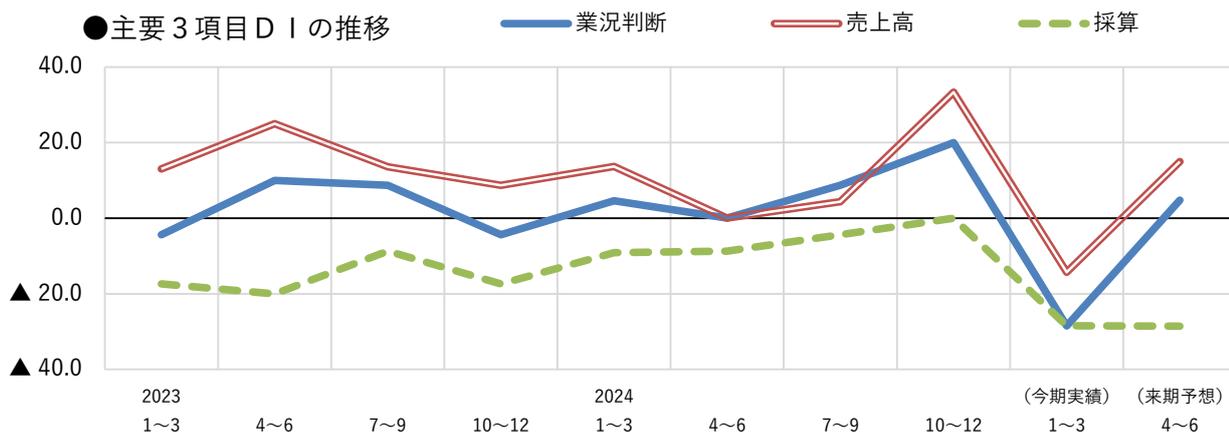
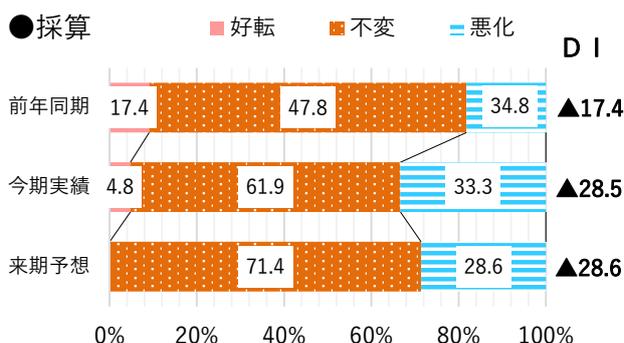
今期の売上高DIは▲14.3で、前年同期と比べ23.0ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期の売上DIは29.3ポイント上昇し、プラスに転じると予想しています。



今期の採算DIは▲28.5で、前年同期と比べ11.1ポイント低下しました。

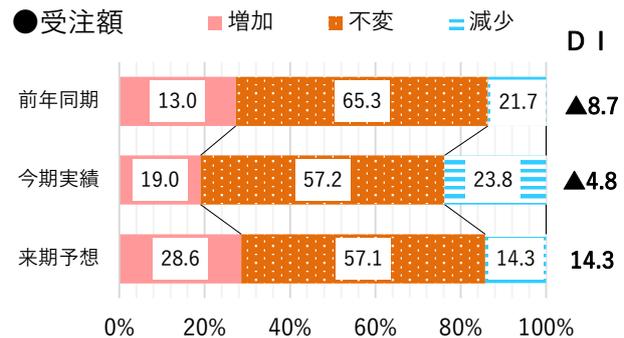
来期の採算DIは0.1ポイント低下し、ほぼ横ばいに推移すると予想しています。



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

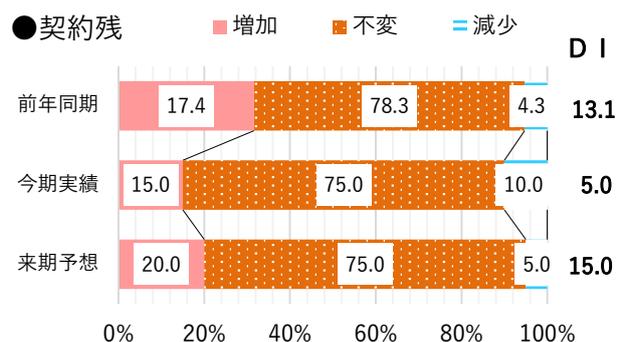
今期の受注額DIは▲4.8で、前年同期と比べ3.9ポイント上昇しました。

来期の受注額DIは19.1ポイント上昇し、プラスに転じると予想しています。



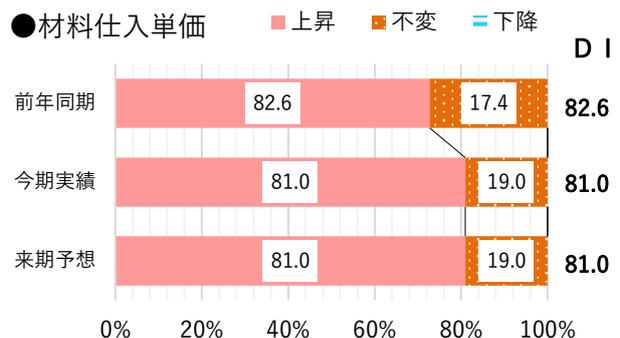
今期の契約残DIは5.0で、前年同期と比べ8.1ポイント低下しました。

来期の契約残DIは10.0ポイント上昇すると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは81.0で、前年同期と比べ1.6ポイント低下しました。

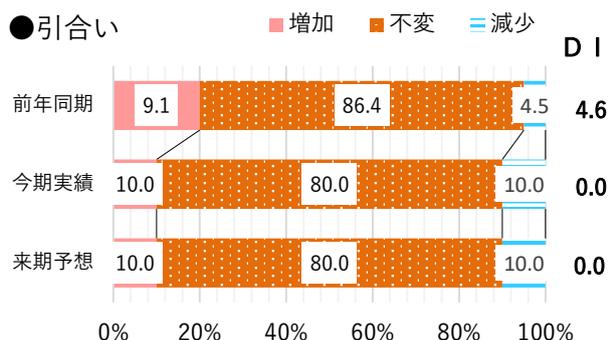
来期の材料仕入単価DIは変化がなく、横ばいを予想しています。



引合い

今期の引合いDIは0.0で、前年同期と比べ4.6ポイント低下しました。

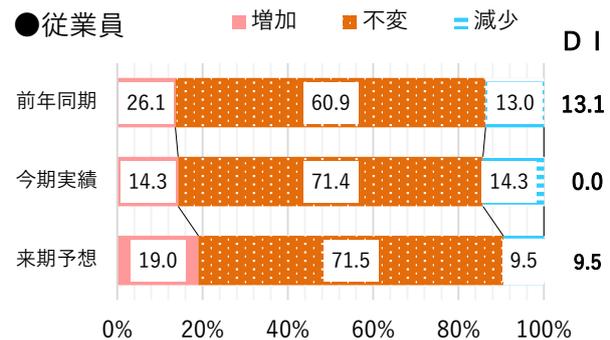
来期の引合いDIは変化がなく、横ばいを予想しています。



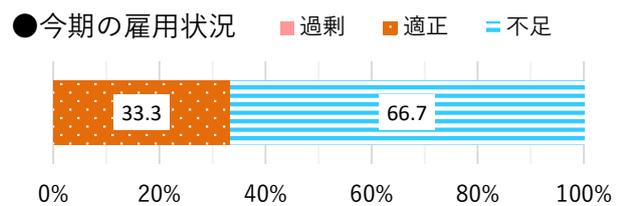
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ13.1ポイント低下しました。

来期の従業員DIは9.5ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は33.3%、不足していると回答した企業の割合は66.7%でした。



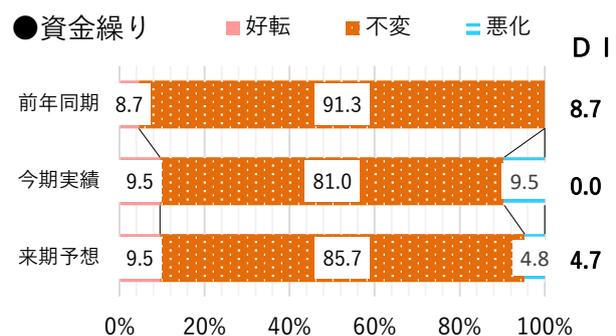
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、38.1%を占めました。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	7
	不足	8
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	3

資金繰り、設備投資

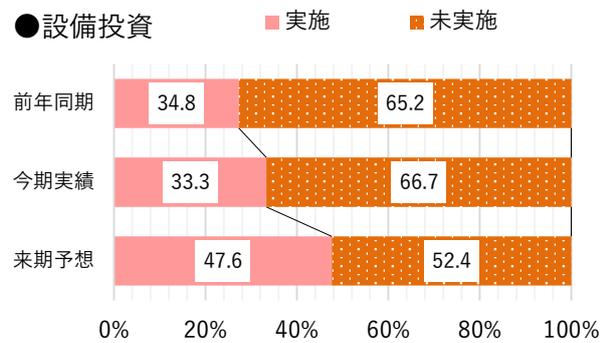
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ8.7ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは4.7ポイント上昇すると予想しています。



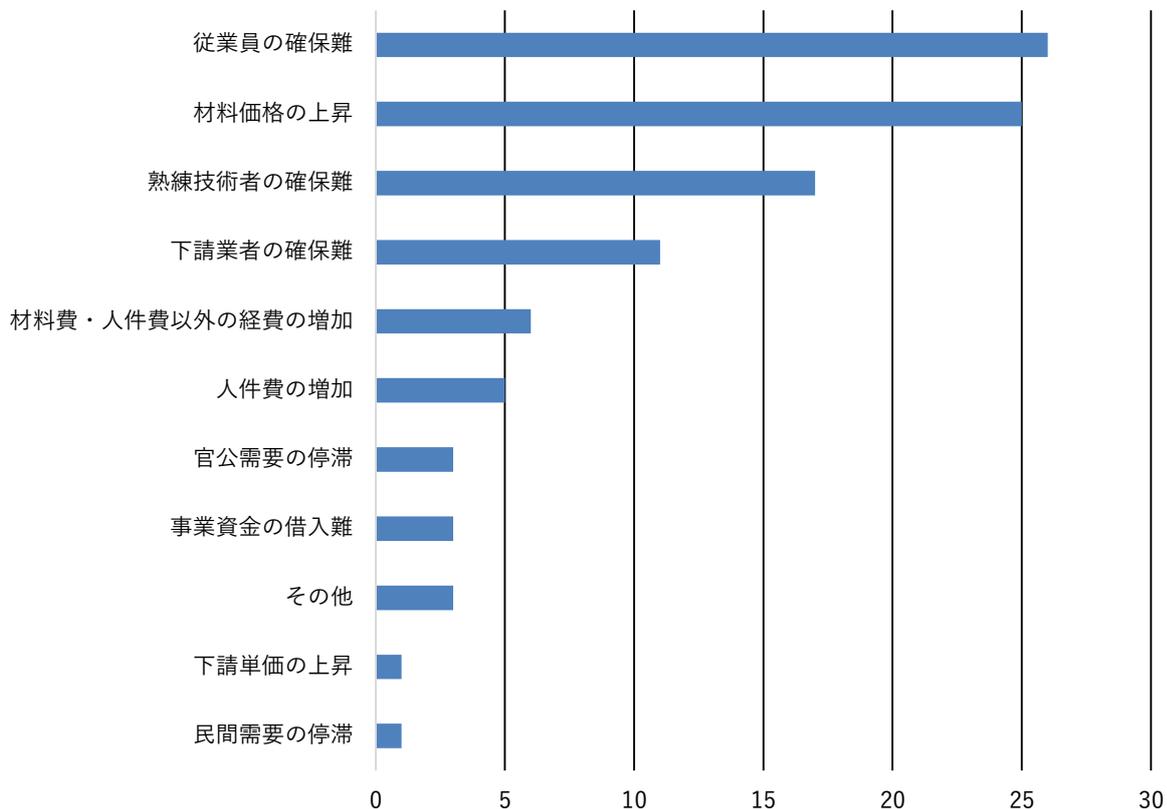
今期の設備投資は33.3%が実施と回答し、前年同期と比べ1.5%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、
「OA機器」（同位）、3位が「建設機械」の順です。

来期は47.6%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料価格の上昇」、3位が「熟練技術者の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 工事の予定が安定せず、大変な思いをしている。（一般土木工事業）
- 売上額は上昇したが仕入価格の上昇により微増。（一般土木工事業）
- 人材不足が課題。（一般土木工事業）
- 1月～3月の間は仕事がなかった。（職別工事業）
- もともとこの時期は仕事が少ない時期である。（造園業）

■売上金額は上昇傾向にあるが物価高騰により利益が出ない。（電気工事業）

[来期の業況について]

■人材確保については4月から入社予定ありだが人材不足。（一般土木工事業）

■人材不足が課題。（一般土木工事業）

■現場作業が始まるため売上増加見込。（造園業）

■売上金額は上昇傾向にあるが物価高騰により利益が出ない。（電気工事業）